

社会福祉法人 不二健育会 特別養護老人ホームケアポート板橋

小西誠之(特養介護主任)

功績 特養介護主任を担う小西は23年以上、不二健育会特養にてご利用者を支えている。介護を志す人材が年々減少し、廃校や介護学部閉鎖が続いている中、実習指導者としてその使命を全うし、開設初めての大学より2025年度1名、2026年度2名(内定)の新卒採用に繋げることができた功績。

推薦者 宇津木忠(ホーム長)

推薦理由 介護人材が不足する中、小西介護主任を中心とした仲間達の指導や助言が、数少ないチャンスを形にすることができました。また1人ではなく、その後輩2名の内定という流れを作ることができたのも、特養の質の高いチームケアの賜物であると考えます。この功績は理事長賞に値すると考え、推薦させて頂きます。

内容

ケアポート板橋 特養介護主任の小西は勤続23年10か月のベテランであり、学校卒業後より不二健育会特養一筋で法人を支える、プレインクマネジャーです。また、実習指導者としてもすべての受け入れ学校窓口として、連絡調整やオリエンテーションから指導まで、その役割を一手に担ってくれています。

介護が志す学生が減少し、短大・専門学校の廃校から実習生は年々減少しておりました。中でも4年制の大学は1校のみとなっており、遠方であることも起因しておりましたが、実習生の受け入れから新卒採用に繋がった実績は開所より0件でした。

小西は、オリエンテーションでの「介護保険サービスの流れ」を当法人サービスに紐づけ、学生がイメージしにくい保険サービスを分かりやすく説明することから始めました。巡回指導の際には、長年培ってきた自らの介護観を熱量込めて伝え、その考え方や施設の取り組みは先生からの評価を頂きます。実習生は年間述べ100名を超えるまでの受け入れとなり、学校での授業を依頼されるまでとなりました。授業では、特養の概要から各ケアのポイントを教え、学生が初めて実習に行く前にイメージがつきやすい様に努めました。また、学生にアンケートを取り、最も不安であるコミュニケーション技術の「ユマニチュード」を講義を行い、その結果、学生より「イメージがついた」「不安が解消した」との声を貰いました。

2022年8月に実習生として受け入れた学生は、2025年度不二健育会で初めての新卒採用職員となりました。きっかけは実習で学んだ知識と、手厚いフォローアップでした。また先生からもご信頼を頂き、今年度は10名の遠足及び納涼祭へのボランティアへ先生と共に学生を参加させて下さり、更にはその中から2026年度の新卒採用職員として、2名の内定が決まっております。この流れは今までの地道な積み重ねの賜物であり、サステナビリティを体現する成果であると考えます。